

概 報

553.6:549.642.4 (521.51):550.85

山梨県東山梨郡大和村田野付近の珪灰石

岡 野 武 雄*

Wollastonite near Tano, Yamato-mura, Higashi-Yamanashi-gun, Yamanashi Prefecture

by
Takeo Okano

Abstract

The new occurrence of wollastonite in a valley near Tano, Yamanashi prefecture was reported a few years ago.

The amount of the wollastonite is small, and has only mineralogical significance.

The wollastonite was formed by the replacement of limestone interstratified with chert of "Kobotoke" formation intruded by biotite-hornblende granodiorite rocks.

1. 緒 言

山梨県東山梨郡田野付近には珪灰石が産出することが知られていたもので、昭和 34 年 2 月 21 日より 3 月 2 日までの間、現地調査を行なった。

調査の結果、珪灰石が存在するといわれていた地点には小規模に散在する珪灰石しか発見されなかったもので、調査の重点を付近の地質の状況と珪灰石の新産地の探査に向けた。

調査にあたっては大和村役場の各位に多大の配慮をいただいたことを記して感謝の意を表する。

2. 位置・交通および現況

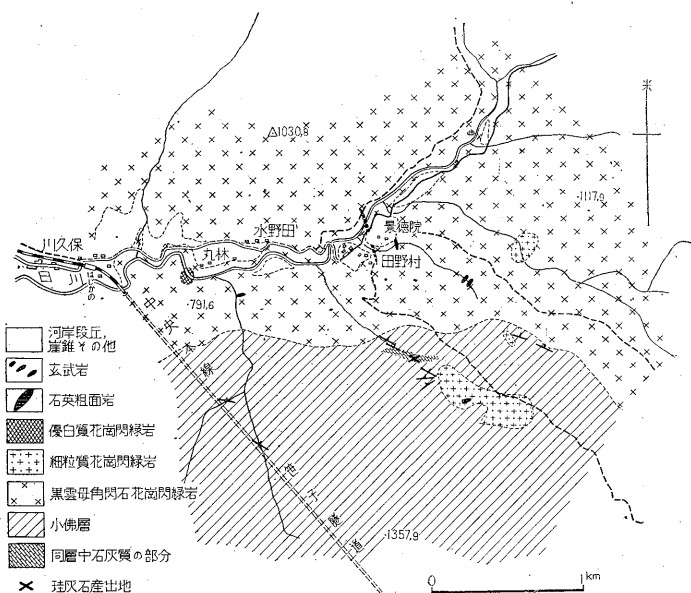
今回の調査の対象となった珪灰石は山梨県東山梨郡大和村字田野にある。現地は中央本線初鹿野駅東方 1.5 km にある門井沢の沢口から上流約 800 m の所にある。交通としては特別の機関はなく、初鹿野駅から徒歩によるほかはない。

珪灰石はかつて採掘されたことも探鉱されたこともない。

3. 地 質

初鹿野駅東方の地質はいわゆる小仏層と、これに貫入した花崗閃緑岩類からなり、ほかに 2~3 の石英粗面岩・玄武岩の岩脈および日川沿いに発達する河岸段丘・沖積層が存在する。

(1) 小仏層



第 1 図 田野付近地質図

* 鉱床部

小仏層は地域の南半部を占めて広く露出し、その走向はN 60°~90°W、傾斜は 60°~80°N を示しているが、花崗閃緑岩類に接する付近ではその貫入の影響を受けて地層は乱されている。

小仏層を構成する岩石は主として砂岩とチャート(縞状チャート)で、頁岩は少ない。また一部(門井沢付近)には石灰岩がチャートと互層して存在する。なお調査地域外であるが笹子峠南東部付近には小仏層中にやままとまった石灰岩の岩体が知られている。

これら小仏層を構成する岩石は花崗閃緑岩体に接する付近ではこれら岩体貫入のさいの影響を受けて変成し、砂岩・チャートは珪岩に、頁岩は縞状チャートに挟まれる部分もホルンフェルスに変わっている。

(2) 花崗閃緑岩類

花崗閃緑岩類は地域の北部に広く分布する黒雲母角閃石花崗閃緑岩と、丸林付近に露出する優白質花崗閃緑岩、曲沢に露出する細粒質花崗閃緑岩および小仏層中に露出する細粒質花崗閃緑岩等である。これら花崗閃緑岩相互の関係は、優白質花崗閃緑岩・細粒質花崗閃緑岩のいずれもが黒雲母角閃石花崗閃緑岩の異相を示すものと推定される。

(3) 岩脈類

石英粗面岩岩脈は景德院付近にあり、走向 N-S、ほぼ垂直、幅約 3m の岩脈で、一部流理構造を示している。黒雲母角閃石花崗閃緑岩を貫き、岩脈中に同岩の捕獲岩を有する。

玄武岩岩脈は数カ所で見られる。これらのうち最大のものは、門井沢の細粒花崗閃緑岩中のもので、沢の左岸にのみ約 50m 露出する。その他はいずれも幅 10m 以下のもので、黒雲母角閃石花崗閃緑岩中にこれを貫いて存在する。

(4) 河岸段丘その他

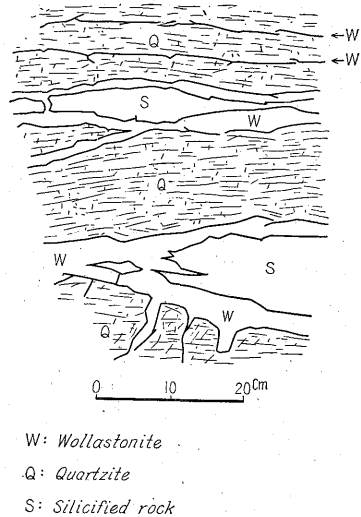
河岸段丘層・崖錐は日川沿いに分布し、いずれも黒雲母角閃石花崗閃緑岩、小仏層の砂岩・チャートの礫から構成されている。

4. 珪 灰 石

珪灰石は門井沢の石灰岩を挟在するチャート中に発見

される。この地点の小仏層は熱変成を受けており、チャートは珪岩に、頁岩はホルンフェルスに変わっている。

珪灰石は1地点にのみ発見され、幅数 cm、長さ数 10 cm~1m 位のが散在している小規模のものである。第2図にその産状の一例を示す。図中珪灰石と示してある部分はほとんど純粋な珪灰石で、珪灰石に変わる前は石灰岩の存在した部分に相当し、これを交代して生成したものと推定される。



第2図 珪灰石の産状

この珪灰石の存在する所は川床であり、この珪灰石を含む地層(小仏層中の石灰質の部分)は N 70°W 方向に伸長しているが、川床で見られる範囲から推定すると、この付近にはまとまった珪灰石の鉱床は期待できない。

なお門井沢以外では珪灰石を発見することができなかった。

5. 結 言

今回の調査目的であった田野地区の珪灰石は、本調査で判明した範囲では鉱物標本的に産出するにすぎない。

(昭和 34 年 2 月調査)